

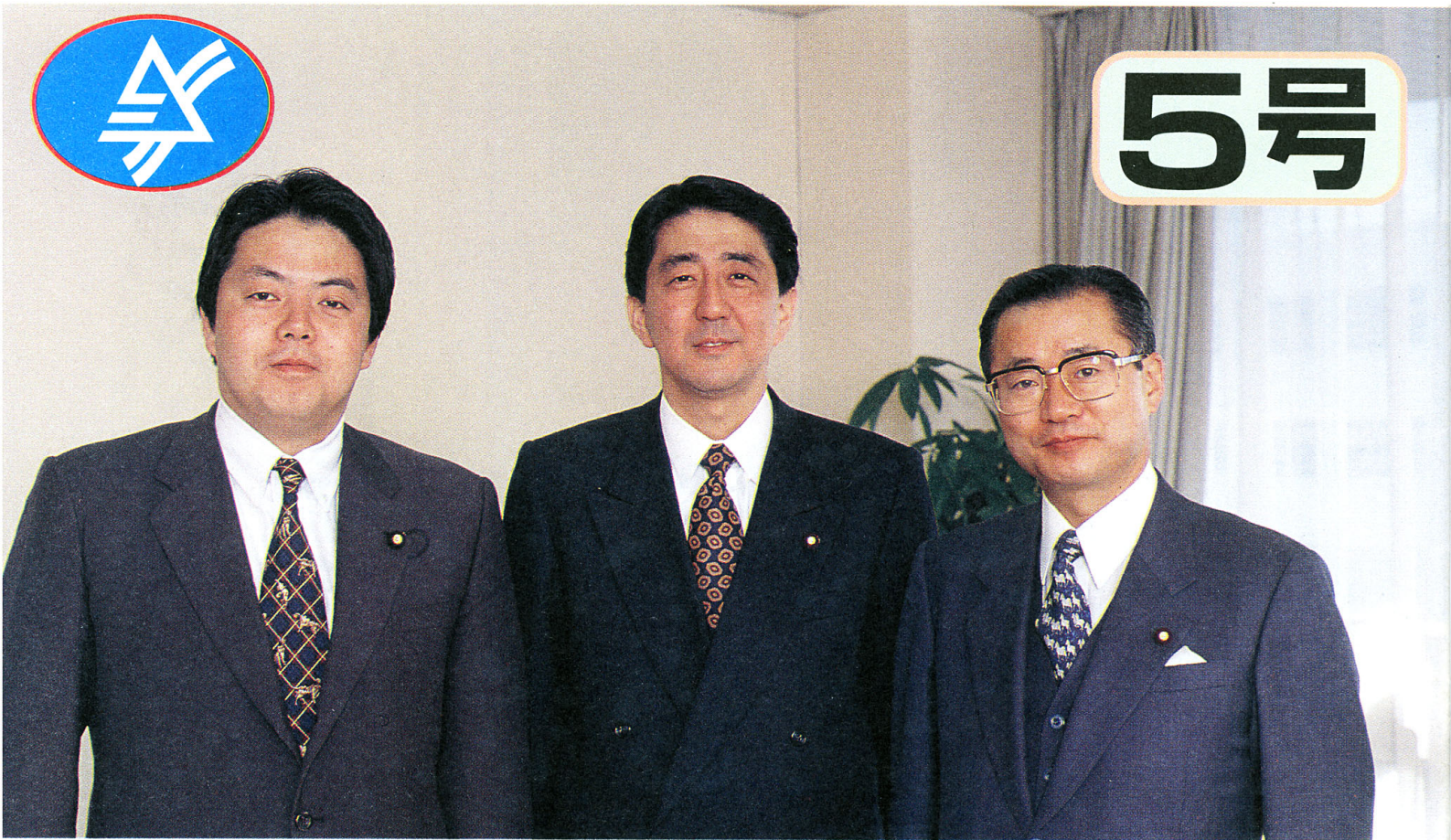
フロンティア

第四選挙区支部会報紙

FRONTIER



5号



本誌は再生紙を使用しています。



明日の日本、 山口県を語る。



プロフィール profile

河村 建夫 (かわむらたけお)

昭和17年11月生。

昭和42年3月に慶應義塾大学商学部卒業後、西部石油に入社。同51年8月に山口県議会議員に初当選し、以来連続4期当選。その間、文教警察委員長、商工労働委員長、議会運営委員長などを歴任。そして平成2年2月、衆議院議員初当選、衆議院大蔵委員会、自民党組織委員会等各委員会に所属する。同5年7月に、衆議院議員選挙にて2期目当選し、同7年10月に政務調査会副会長に就任、同8年1月に法務政務次官に就任、現在に至る。

林 芳正 (はやしよしまさ)

昭和36年1月生。

昭和59年3月に東京大学法学部卒業後、三井物産に入社。平成元年6月サンデン交通に入社、同2年7月に山口合同ガスに入社し、ガス工事に携わる。同4年9月にハーバード大学ケネディ行政大学院入学、途中、林義郎大蔵大臣政務秘書官に任命され、大学を休学し帰国後、同6年6月に卒業。そして昨年7月、第17回参議院議員選挙にて初当選する。現在、商工委員会、議員運営委員会、国際問題に関する調査委員会に所属する。

安倍 晋三 (あべしんぞう)

司会 今回は、山口県選出の最も身近なお三人に出席をお願いいたしました。地元支援の方々より寄せられました質問の中から、いくつかをお聞きしようと思います。

まず、山口県は中央とのねじれ現象があるようですし、政策的な違いもわかりにくいのですが、その辺りからお聞かせ下さい。

河村 確かに、県政ではほとんどオール与党ですので、ますますわかりにくいと思います。

ただ、この前の参議院選挙で完全に非自民、自民でやって、林さんが当選されて、これはこれで一つの決着がついたわけですから、今度社民党も出来ましたし、



これからは新しい与党として一緒にやっていくべきだ、そう思っています。

林 今の連立というのは、連立の枠組みをきちんと作ってはいますが、新進党と自民党とは、政策的にはあまり大きな違いはないわけです。むしろ社会党が、前の連立から抜けていったことと、後は今の三党が一緒になった経緯というのは、その中身じゃなくて、手続き、物事の決め方に一番大きな違いがあると思います。誰かの一言で、トップダウンで決まってしまうようなやり方ではなくて、いわゆる民主的にものを決めていって、多少時間がかかっても、きちんとそれぞれの意見を聞いてやっていくというやり方ですよ。これが前の連立と今の連立の一番わかりやすい違いかなという気がします。



河村 建夫

安倍 山口県では社民党、旧社会党の姿勢が大変わかりにくいということじゃないかなと思うのです。中央においてはわが党と連立政権を組んでいるにもかかわらず、山口県においては、限りなく反自民に近い非自民という姿勢をとっています。

これは、社民党が混乱の中にあつて、組織政党としての筋を通すことができなくなっているためだと思います。自民党と連立政権を組むというのは一つの政治的な決断ですから、党内議論をちゃんとしながら、上から下まできっちり、その方向で行くべきでしょう。残念ながらその議論がなくて、かなりそれをなし崩し的にやっているようにみえます。こんなことでは、私は社民党の未来はないのではないかと思います。そういう意味では、わが党と協力をしていけるところは協力するという姿をちゃんと示すべきではないでしょうか。ちょっと場当たり的で、都合が良すぎやしないかという気がします。

それと、新進党とわが党の違いで、一つは、新進党のみなさんは、自民党との違いを示すために、改革者の姿勢を常に示していかなければいけないという強迫

観念に駆られているようです。要するに、何でも変えることが使命になっているわけです。今のところ、そこにしか彼らは自分の存在感を見いだすことが出来ないわけです。

しかし、わが党は何か大切かということとを、しっかりと踏まえながら、保守政党として責任を持って前に進んでいます。ですから、たとえ不人気な政策であつても、日本のために正しいということは断固としてやるというのが、自民党じゃないかと考えます。

司会 次に、新聞では「景気は明るい兆しを含みつつも足踏み状態」との報道があります。今後の景気の見通しは、特に山口県を中心にどうでしょうか。

安倍 景気については、日本全体としては間違いなく良くなっていると思います。橋本さんが総理大臣になって、非常に安定感が出てきたわけです。

それと、今の不景気のネックになっているのは、戦後、初めて金融が大変な傷を負ってしまったということです。そのことに対して、いろいろな国民のご批判はありますけれども、住専問題に政府が責任を持って解決の姿勢を見せたことによって、株価は大変好感を持って上がってきましたし、私は安定感が出たと思います。

河村 山口県には、瀬戸内海の工業地帯と、日本海側の第一次産業という違いが

あるわけです。瀬戸内海工業地帯は、ようやく各社とも黒字基調になってきていますから、底をついたのではないかなという感じがしています。

一方、日本海側の第一次産業というのは、不景気の波が一番最初にくいて、良くなったときは一番最後まで残る、こういうわれ続けております。ですから、公共事業は傾斜配分を考えないといけないでしょう。

司会 今のお話に関連して、農業従事者の激減というのが深刻化してきて、頑張っておられる方の中にも、作業委託を希望する声が多いようなんですが、いかがですか。

林 今度、ウルグアイ・ラウンドの合意が成立し、新食糧法も施行されました。日本の場合、いろいろな助成もさることながら、お互いが助け合ってやっているところに、それを後押しするような助成に、もう少し重点を置いて見直さなければいけないと思います。

やっぱり高齢化がだいぶ進んでいますから、作業委託などの方法、つまり、農地改革の大原則、農業をやる主体と土地を持っている人たちが、一緒になければいけないという原則について、分離できるようなことを、少し考えてもいいのかなと思います。

もう一つは、海外との競争というのが出てくるわけですから、やる気のある人のところへ土地を集めて、頑張っていた

だくことが大事だと思っています。農業というのは、完全な自由競争でやったほうがいいとは思わないんです。日本の食糧供給の面とか、環境保護の面から考えても、いろいろとプラスの面がありますから「海外の市場と、どれくらいまでの格差なら守っていきますよ」ということははっきりし、その中で頑張っていたければ良いと思います。

安倍 今、林先生がおっしゃったように、農業を産業政策という側面だけで割り切つてはいけないと思います。それがウルグアイ・ラウンドの一つの大きな欠陥であったと思います。農業というのは、食糧を供給するという、人間にとって一番大切な産業であり、農業によって地域が形成されます。また、環境を守り、国土も守っています。かつ、その国の文化と非常に密接に繋がっています。そういった視点を無視して農業を見捨てるのか、それは地球環境を考えるうえからいっても間違いだと思ふんですね。産業という側面で割り切っていくところは、生産性と効率性をあげて、コストも下げて、ぎりぎりです。

この考えはまだ、世界的、普遍的な価値観になっていませんから、これから、わが国が中心になって広めていかなければなりません。でなければ将来、世界の人口が百億人になろうかという中にあって、必ず食糧がなくなつてきます。我々が、お金で世界中から食糧を買って、貧しい国々は逆に買えなくなるという事態になるわけです。

司会 山口県が首都圏の新聞にUターンの呼びかけ、「東京卒業」という広告を出しましたね。これが非常な反響を呼んで、本にまでなっている状態なんです、この辺りはいかがですか。

林 今の日本の産業構造ですと、どうしても都市へ集中するような形になっていきます。東京で勤めている連中に聞きますと、同じ条件なら、そろそろ帰りたいなという声もあります。というのは、学生の頃とか、独身のときは、都会も面白いのですが、結婚して子供ができて落ち着いてくると、住環境を含めて、地方の魅力とふるさとの魅力がプラスで重なるくるわけです。ですから、住宅費も安いし、環境もいいから、名目賃金は安くても、購買力ということで同じくらいの賃金の職場をつくってあげれば、かなり戻ってくる人はいえると思います。そういう職場を、どうやってつくっていくかというところが大事なことです。

河村 その受け皿作りをどうするかというところが、今後の一つの大きな課題だと思ふんです。企業誘致というより、企業を起こすということで、これからの情報化時代に対応したベンチャービジネスをどうやってつくっていくかが大切ですね。

産業の空洞化というのは、先進国の一番の悩みであると同時に、止められない世界の一つの流れだと思ふんですよ。そうすると、やっぱり新しいものを起こしていくしかないでしょう。

安倍 一生懸命勉強して、いい大学に入つて、いい会社に入つて東京に住む、この生活が本当に自分の望んでいたものかどうかと言う疑問が、だんだん出始めてきています。そういう中であつて、本当に豊かな人生をエンジニア出来るのはどちらかということ考えたときに、山口県は、美しい環境の中で余裕を持つて生活できるという、たいへん大きなセールスポイントがあると思うのです。

それと同時に、第二次産業革命と言われる時代の中であつて、例えばアメリカを例にとると、新しい企業がどこで起こっているかという、いろいろな地域から起こつてきています。この情報化社会の中で、山口県にいても、これからは東京にいたのと同じような情報を集めることが可能になってきますから、最先端の企業にかかわることもできるという、時代の波に乗っていくことだと思います。

河村 これは東京一極集中の排除にも繋がると思ふんですね。

司会 次に、下関市に建設中の海峡ゆめタワーや、山口国際交流センターなんですが、あの建設を見ながら、正直なところ、どうなるのか心配になるのですが、その辺りのご感想をお聞きたいと思ひます。

河村 これからは、地方が国際化の基地になつていかなければいけない時代ですから、山口県としては、下関を中心にして、そこからいろいろな情報発信をしていくことが大切です。そのために、この

林 芳正



国際総合センターもあるし、人工島の建設もありましようから、二十一世紀に向かって、その基盤が完全にできるという意味で、今のゆめタワーを初めとした一連のものに期待をしています。

林 現実問題として、福岡に同じようなものが出来るそうで、今、担当者が苦労されているところですが、そういう状況の中で、大変に健闘しているというのが私の率直な印象です。

この間、おもしろい話を聞いたんです。下関駅に来て、唐戸まで行つて、唐戸から門司へ船で行く。門司から電車で下関に戻ってくる。そうすると、一周回れるわけです。そのループを完成するには、下関駅から唐戸へ行く途中に、行きたいなと思うゾーンを作れば、関門海峡を挟んだ大きな円が出来ます。海があんなに近くにあって、景色もいいわけですから、この辺を一体として、いい絵を描いてもいいなと思ひます。

安倍 これから、あそこを生かしていくのは、山口県というか、下関市民の肩にかかっていると思うのです。アジアの中核都市にしていこうという意気込みを我々

は持っていますから、例えば、あそこでアジア全体のフォーラムを開くとか、アジアの国々の皆さんも積極的にあの場所を使って、日本に情報を発信していったきたいと思いますし、我々もそういうインセンティブを与えていかなければいけないと思います。

司会 お話は変わるんですが、近々クリントン大統領が来日されるようです。その際に、日米安全保障条約の再定義というお話があるようなんですが、その点はいかがでしょうか。

河村 日本の外交政策としては、やっぱり日米関係が一番基軸になっておりますから、ここを揺るぎないものにしていただいて、対アジアとの関係を構築することだろうと思うのです。

一方、戦後ずっと日本の米軍基地の八割近いものを沖縄に置いてきました。ですから、沖縄県民の皆さんの気持ちを我々が理解することは、国民感情からいって、二十一世紀の日米関係において重要なことです。日米関係を揺るぎないものにするためにも、沖縄の問題を前進させ



ることが必要になってくるので、大統領の訪日というのは大変意義のあることではないかと思っています。

林 冷戦の終結で、共同の敵、ソ連を仮想敵国とみなしたという状況はなくなつたのですが、全員が一つの枠になって、その仲間うちから悪いやつが出てくるかもしれない、そういう新しい安全保障の考え方に変わりつつありますよね。例えば仲良くしている仲間うちから、サダム・フセインのような人間が出てくる可能性があるあります。そういう脅威に対抗していくには、アメリカとの友好関係を持続していかなければ、アジア・太平洋地域の安全保障は、成り立っていかないだろうと思います。その上で、多国間の信頼関係を進めて、長期的にはヨーロッパのような安全保障のあり方を構築していくことが、私は望ましいと思います。

安倍 日米間が、しっかりとお互いに信頼の絆で結ばれていることによって、戦後ずっと、太平洋地域は基本的には安定してきたわけです。またアジアの国々も、わが国がアメリカと軍事的な同盟を結んでいることに対して、大変な安心感を持っていることから、冷戦が終わった中で、性格は当然変わってきているのですが、私はその重要性は全く変わっていないと思うんですね。

ただ、問題点として、その負担のほとんどを、我々は沖縄の方々に押しつけてきたという側面があります。ここで我々は、沖縄の将来のことも踏まえて、基地をどうしていくのか、基地を本土側に移

転するのか、あるいは今の四万七千人が本当に必要なかどうか、また戦略的にも戦術的にも、どれぐらいの規模が必要なのか、日米間において、しっかりと冷静に議論を続けながら、出来る限り沖縄の方々の負担を減らしていくということを考えていかなければいけないと思います。

その中で、集团的自衛権というのが大きな問題点としてあります。例えば、本土の自衛隊が共同体制において、それなりの役割を担えるのであれば、米軍は減らせるわけです。大切なのは、四万七千人を減らしていくということじゃないかと思っています。それにはどういう方法があるか、いろいろな選択肢を冷静に議論していくことが必要だと思っています。

司会 質問事項は一応これで終わりますが、最後に、皆さんから一言ずつ付け加えることがございましたらお願いいたします。

河村 我々は新しい時代を作っていくかなければいけないし、日本の政治の在り方も、新しいものを求めていかなければいけません。今回の新しい制度による選挙はその一つのきっかけになると思います。政策を前面に押し出しながら、政権をかけて政策で争うというのが、本来の政党政治なんですから、今回の選挙に当たっては、自民党一本でまさに単独政権が出来るように、お互いに手を取り合って、頑張っていくということが大切だと思います。

林 選挙制度の話は、完璧な制度という

のはないと思うのです。いろいろなご批判があるようですが、一度国会で決めたことを実行しなければなりません。やる以上は、小選挙区で、二大政党なり、二・五大政党を目指していくことだと思っています。しかし相手の新進党は、例の宗教法人法の改正の時に、議会人にあるまじき行為を行うような党ですから、政権交代を含めて、切磋琢磨して競争する相手としてはちよつとまずいかなと思います。そういう意味では、今回の選挙は過渡期の選挙でもありますし、絶対に負けられません。ですから、今日のお二人の先生には圧倒的に勝って頂きたいし、そのためにも、今度私は自分の選挙がないわけですから、できる限りの選挙の応援態勢を組んで、必勝態勢で頑張りたいと思います。

安倍 与野党ともに新しい政党になっています。我々も、今まで派閥が相争っていたという時代から、お互いに協力し合っていくかなければ、自民党が変わっていくためにも、また二大政党を目指していくうえにおいても、改革をした意味が全くなくなると思います。

司会 本日はお忙しい中、ありがとうございました。今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

(この座談会は平成八年二月十四日、自民党本部にて行いました。)

介護保険と老後の安心

あべ晋三

今年に入ってから、新聞やテレビ等で、介護保険の記事や特集を目にする事が多くなりました。一月三十一日に、老人保健福祉審議会の「第二次中間報告」が発表されたという事もあるのですが、介護保険に対する国民の関心が高まってきているからではないでしょうか。

私も与党福祉プロジェクト（与党の福祉関係政策調整会議）において、昨年二月頃より関心を持って議論に参加してきました。介護保険問題に関して、日本の将来における老人福祉のあり方は、医療制度に大きく影響すると同時に、なによりも私たちが、安心して老後を迎えることが出来るかどうかに関わってきます。今、なぜ介護保険が必要なのか、問題点は何かに

ついて述べさせていた
だきたいと思います。

日本は、ヨーロッパ
諸国の歩んできた少子
高齢化社会への道を、
かなり速いスピードで

進んでいます。当然、介護を要する高齢者の数も増加してゆき、今、約二百万人いる要介護者が、二〇二五年には五百〜六百万人になると言われております。現在、わが国は新ゴールドプランとして、平成七年から十一年までの五年間で、約十兆円の予算を投入して施設整備、あるいは在宅介護支援体制を整備しております。しかし、今後の介護に要する人件費、施設運営費をどうするのか、社会的入院によって病院（医療保険）で介護を受ける人の増加により、圧迫されている医療保険制度をどうするのか、そうした事を考えた結果、国民の皆様は保険料という形で負担をお願いしようということになりました。

今までは、公費方式によって介護支援を行ってきました。しかし、この方式ではサービスに柔軟性、多様性が無く、また権利としてサービスを受けるということよりも、特別な措置をお願いするという気持ちで、高齢者の方々が持つ傾向になります。社会保険方式を導入することにより、

負担と受益の関係を明確化し、権利として施設、在宅で色々なサービスを選択できるようにあります。

勿論、これから議論しなくてはならない問題点も沢山あります。①保険料は何歳から払うのか。二十代、三十代の若者が負担を納得するか、また六十五歳からの給付とすると、六十歳で要介護になった人はどうするのか。②家族介護に対してはどう考えるのか。（ドイツでは現金給付）③給付と負担の水準をどうするのか。等々、国民全体のコンセンサスはどこにあるのか、これから検討をしてゆかなくてはならないでしょう。

長寿化に伴い、介護の問題は国民誰にでも起こり得る問題であり、介護の長期化により、家族での介護に頼るだけでは、家族、高齢者双方に困難が生じてきます。社会連帯を基礎に社会、世代間が支え合う『高齢者が自らの意志に基き、自立した質の高い生活を送ることの出来る支援システム』を一日も早く確立するために、努力してゆきたいと思っています。



年あらたまに、な。燃える思いを胸に秘め。



年頭の所感と決意



平和を祈る明るい歌声

新春のふるさとに集う
熱いまなざし。



揺るがぬ誓い



支える手・支える笑顔・応える夫妻



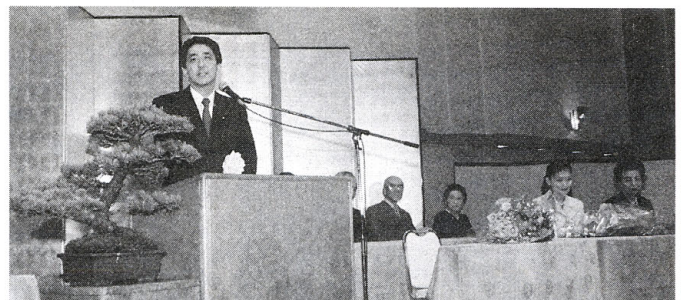
太田三夫晋緑会副会長の万歳に唱和（下関・豊浦郡 新春の集い）



林よしまさ議員の温かい励まし



「晋三さん昭恵さん、頑張ってるね」（長門・大津郡 新春の集い）



力強く語る今年の抱負（長門・大津郡 新春の集い）



“セーノ”と鏡開きは下関漁港



河村建夫代議士とフクの南風泊市場で

初心固めの
初セリ4題。



景気回復を、と下関唐戸魚市場で



“イヨーツ”と手締めは下関青果市場

聞いて話して、実現に努力。



三隅町新役員会の万歳に深々と

あの町この町
あべ晋三コール!

第4選挙区幹事会「友愛」の乾杯



林哲也菊川町の「檄」



豊浦町後援会連合結成大会で挨拶



語る、語る、日本の未来を語る（参院選、林候補の応援）



婦人部拡大会長会議でスピーチ



お元気ですか



小泉純一郎先生と特養老人ホーム訪問

施設の声にも耳かたむけて。



福祉の第一線で活躍する人々と

ソフトでエネルギー。

こまやかに地域・職域の声を。



うに製造工場に働く人々の真剣な声



災害皆無の平穏な日々を — 油谷町消防出初式



明るく豊かな未来を — 産業文化祭



自動車販売業の皆さんと



森林組合の悩みもちゃんとメモ



水産物加工現場の話を聞く

清末三派(林・河村・安倍)婦人世話人会の皆さんと



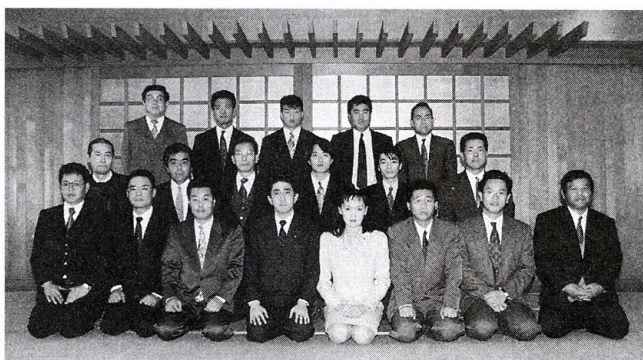
山口県はアジアに開かれた拠点。

和をもって未来を拓く。

中谷グループ



長門市・大津郡青年部



彦島のミニ集会



歯科晋友会婦人部



傷痍軍人妻の会



全国大会の雄・大津高校ラグビー部



小島漁業組合

地元の皆様と心の交流。

森グループの皆さんと昭恵夫人



藤田グループ



楯田グループ



もはや常連・馬関まつりの安倍夫妻



この爽快さが明日の英気



美しい手さばき掘さばき

ある日、 ある時。



挨拶・橋本総理大臣（現在）



1,000人を超える政財界の人々



小泉代議士の音頭で三塚会長・森代議士・橋本聖子議員らと乾杯

大盛会、安倍晋三 政経セミナー東京大会。



祝辞・森建設大臣（当時）

ゆきわたる
心くばり。



塚原通産大臣に下関FAZ（輸入促進地域）の説明をする



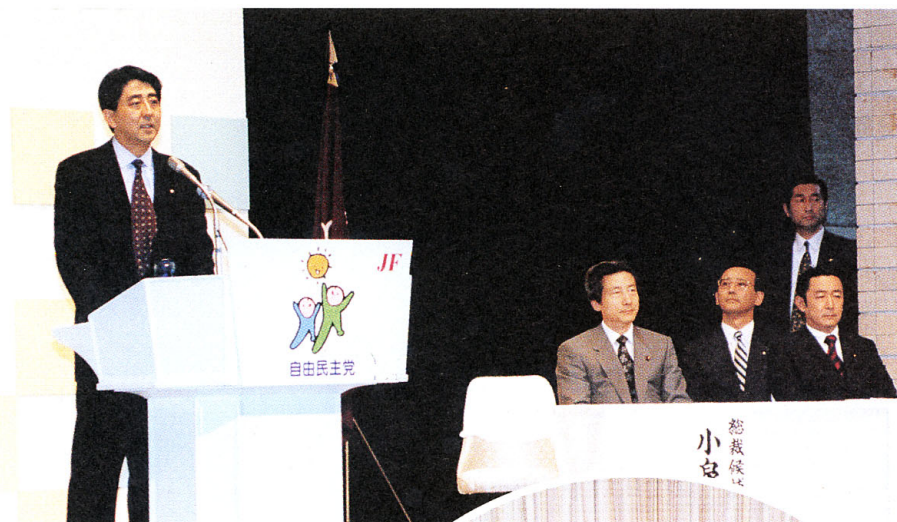
加藤幹事長を菊川町議団と訪問



地元陳情に真剣に対応



平沼運輸大臣（当時）に下関市長と人工島計画について陳情



自民党全国会議員を前に小泉陣営を代表して推薦演説



橋本新総理と自民党総裁室でガッチリと握手



村山総理（当時）と首相官邸にて懇談



闘い終わって爽やかに記者会見



災害対策特別委員として急きょ阪神淡路の被災地を視察

父晋太郎の思い出にふれて



ブッシュ前アメリカ大統領



ゴルバチョフ前ロシア大統領

全力つくした 自民党総裁選。



加藤幹事長と入念な打ち合わせ



TBSで放送された関口宏の報道30時間テレビの中の“政界100人烈伝”に出演し、熱弁を振る



自民党代議士
安倍晋三

専業農家を守って

大津郡 農業

小生はご尊父の代から敬愛してやまない安倍ファンです。
職種は農業、それも純粋な専業農家です。

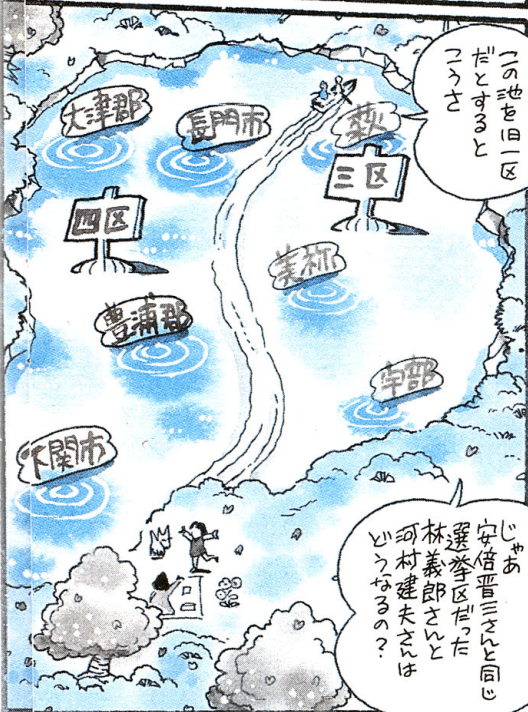
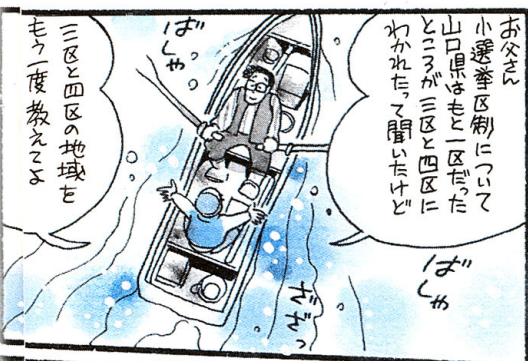
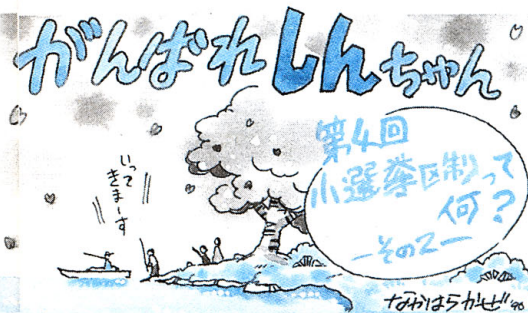
われわれ農家は、先祖伝来の土地を守り、畑を守り、水田を守って来ました。それが転作政策の強化やウルグアイ・ラウンド農業合意などによって、実に厳しい環境の淵に立たされることになりました。

ところで、このほど発表された山口県予算を見ますと、農業振興として「山口ブランド米等新品種研究開発事業」や「新規就農支援センター設立対策事業」「農村女性はずらつ資金」が組込まれています。しかし、コメを例にとると言えば、つい最近、山口県産ヤマヒカリなど既存の2銘柄は値幅制限の下限に張りつく始末で、安値に終わりました。供給過剰気味だから、と諦める人も居ますが、新潟県魚沼産のコシヒカリが上限に張りついた事実は、なるほど良いコメだから高く売れる、

ということの証しです。新品種開発研究も大切でしょうが、専業農家をもっと重く扱ってヤマヒカリの改良を進める策を練って頂きたいものです。

コメだけに限らず、麦、野菜、林業すべてに言えることですが、高齢化、後継者不足、嫁不足に悩む専業農家の悲鳴としてお聞き下されば幸甚です。国政をあずかる代議士さんに県予算など筋違いのようですが、これは身近な一例で、農業一本槍で頑張る者を守って欲しいという願いは全国共通の祈りです。

あの町この町 読者の広場



徳育教育を

長門市 主婦

このところ、いじめによる自殺や教師の不祥事が続き、子供にも親たちにも暗くてつらい日々ですが、今朝の新聞に「学校に不満を持つ人は67%も居る」と、全国世論調査の結果が報じられていて余計に悲しくなりました。

登校拒否とか暴力教室などがマスコミに取りあげられて久しく、でも、それにしても、現在の学校教育に満足できない人が3人に2人とは、あまりにもひどいですね。その主な理由は、①いじめ、②詰め込み教育、③教師の質……などがありますが、それらの原因は何によって生じるのでしょうか。

もともと学校という施設は学問や個性を伸ばすだけでなく、集団生活によって友人、体力、持久力を作り、ルール、しつけ、思いやりなどを学ぶところです。それが今は、受験中心の偏差値が優先して本来の教育はおろそかになり、合格のためだけと言ってもいいような詰め込み授業が主体で、多くの子供たちには塾などの疲れを癒す場となっているそうです。

昔の学校には、授業そのものでなく、脇道にそれたり寄り道をして、楽しい話や素晴らしい本を紹介して下さる先生が多くいらっしゃいました。私たちはそれらのお話の中から、温かい心や、強く生きるすべなどを汲み取りました。

「バランスのとれた教育を推し進めることによって、郷土や国を愛する心を育ててこそ本当の豊かさが実現する」とは、かつて安倍晋三さんが書かれた一文ですが、そういえば安倍さんが掲げられる『信念・目標』の一つに「徳育教育の推進」があります。

どうぞあなたのお力で、日本の教育を正しい方向へ戻して下さいませよう、心からお願い致します。



このページに対する、
ご意見・ご希望をお寄せ
ください。多くの方のご
投稿をお待ちしています。

あべ先生、安倍代議士、と書いて
みましたが何かしっくりせず、やは
り昔ながらの「晋三さん」と呼ばせ
てください。

ご存知の通り、私が住んでいる近
くに一五三メートルの海峡ゆめタワ
ーが完成しつつあります。その偉容
を見あげていますと、この町の明る
い未来を示唆しているようでしたの
もしくなります。

そんな矢先に、政府は月例経済報
告で「景気には緩やかながら再び回
復の動きがみられ始めている」と、
事実上の景気回復宣言を行いました。
それを聞いて私は「ああ、やっばり」
と、うなずきました。よく考えて
みると少し引かかるものがあります。
確かに、公共工事発注件数や民間
設備投資の先行指数で機械受注は伸
び、新設住宅着工戸数なども増えて
います。けれども、雇用の悪化によ
る失業者は二一〇万人を超え、加え
て低金利によるせいか個人消費はマ
イナス傾向で、企業も価格低下の波
をかぶって収益減に悩んでいます。
それに、株価や欧米景気の低迷など
を考えますと、景気回復という言葉
にあいまいさを感じてなりません。

しかし私は以前から、政治が安定
すれば必ず経済は上向くと考えてい
ますので、自由民主党政権が約一年
半ぶりにようやく戻ってまいり、そ
れからまもない時期に出された回復
宣言だけに大いに期待するものがあ
ります。晋三さん、今こそ真正面か
ら経済構造の改革に取り組んで頂き
たいと願ってやみません。





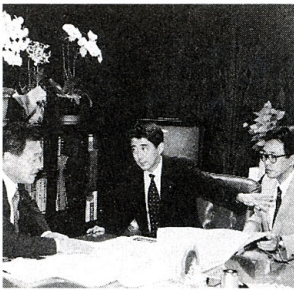
下関北バイパスと 山陰自動車道

待ちに待った下関北バイパスの起工式が、このほど行われました。下関市筋川から安岡までの約7キロで、道幅30メートルの四車線、これによって一般国道191号線の金比羅や山の田交差点付近の深刻な交通渋滞は、かなり解消される筈です。

ところで、このバイパスは総事業費を約五百億円と見込んだものの、なかなか予算化されませんでした。そこで安倍代議士が厳父のころから親しくして頂いて来た、森喜朗建設大臣(当時)にお願いに行き、平成七年度の半ばに国家予算の補正措置がなされ、約十億円がようやく認められて

着工することができました。

また、念願の山陰自動車道は、採算を度外視した計画にも拘らず、新たな交通軸の一翼を担うものとして、島根県から長門市、下関市へと西下する予定の線引きがなされています。しかしそのルートでは豊北町や豊田町、菊川町など山間に位置する地域のメリットは薄く、そのために安倍代議士は、これらの町から山陰自動車道や191号バイパスなどにアクセスできる方策を条件に、その実現を目指そうと努力しています。われらが代議士の政治手腕に期待しましょう。



下関北バイパスについて、
森建設大臣(当時)に陳情する

手話コンサートと ノーマライゼーション

「フロンティア4号」でご紹介しました新ゴールドプランは「簡潔でよく理解できた」というお便りが、たくさんあべ晋三後援会に寄せられました。そこで、今回は「ノーマライゼーションって何?」のご質問にお答えしましょう。自由民主党と政府は、平成八年から十四年までの七ヶ年、重点的に、障害者の方々の自立を促進するための環境整備を主題とした「障害者プラン」を作成し、スタートしました。この「障害者プラン」の骨格を成す理念の一つが、ノーマライゼーションです。

ノーマライゼーションとは、障害を持った方々が障害を持たない人と同様に生活し、仕事をし、そして同じチャンスが与えられる、そういう社会や環境をつくることです。そのためには、国や地域でバリアフリー(障害を取り除く―車椅子の人にとっては、階段や段差を無くす)を促進しなくてはなりません。また、私達の心の中にあるバリア、例えば障害者の人達が仕事をしたり、社会に参加することは無理だと頭から決めつけている、といった考え方を変えることが必要です。

ノーマライゼーションの一環として、安倍代議士の奥様、昭恵夫人が、手話シャンソン歌手として全国的に活躍している朝倉まみさんを招き、昨年暮れにマリージュ

玉姫殿において「手話コンサート」を開催いたしました。聴覚障害者の方にもコンサートを楽しんでもらいたい、そんな気持ちで朝倉さんにお願したということでしたが、当初は、音楽の心が本当に伝わるのだろうか? ということが私達の率直な気持ちでした。しかしコンサートが始まると、そんな不安は吹き飛びました。聴覚障害者の方々を中心に集まった約百五十人の観客は、朝倉さんの表現力豊かな手話、表情、歌を心で受け止め、場内は感動に包まれました。

このコンサートで経験したことは、聴覚障害者はコンサートを楽しむことはできない、という考え方が、まさに心のバリアであるということです。

JR下関駅前地下道に、全国初の視覚障害者を自動判別する音声道案内システムが設けられたり、県内でもノーマライゼーションはスタートしています。安倍代議士は、故郷を障害者プラン先進地にすべく頑張っています。

